

JRFUTY No.7

Japan Freight Railway works Union Tohoku Young

March 8, 2024
Publisher T. Ōkubo

2月26日(月)、24春闘第2回交渉における、組合と会社の考えは以下のとおりです。

～組合の要求の根拠～

- 23春闘において平均1,000円のベースアップと昇給額表に基づく昇給を青わせて1.93%の賃上げにとどまっております。組合員は1.27%の実質賃金低下し生活は苦しくなる一方である。
- 2024年問題でJR貨物に追い風が吹いているが、要員不足では期待に応えることはできない。離職率も今年度は2%を超えるということで、離職防止に向けてさらなる対策をするべきである。
- 昨年「率回答」の要素が入ったことにより、100円の差がついた。青年部は「定額回答」を求めている。

～会社の考え～

- 現状、収入が上がっていない。3期連続の赤字決算は免れない。物価上昇によって実質的な賃下げ状態なことや、世の中や他企業の情勢は認識している。
- 昨年より離職者は増えている。しかし、賃金が安いという理由がすべてではない。離職防止のために職場環境を変えたり、産業医も入れたりしながら、引き続き対応していきたい。
- 満額回答には及ばないが、有額回答をして社員に寄り添っている。貨物労組の気持ちに少しでも応えている。

3月7日(木)、第3回交渉における組合と会社の考えは以下のとおりです

～会社の考え～

- 昇給額表に応じた昇給は行う。ベアは昨年以上の金額を提示したい。率か額かは決まっていない。引き続き、社内で議論していく。
- 離職の原因は賃金がすべてではない。しかし、離職率が会社発足以降最も高い水準であることは認識している。会社としては、社員がより長く働いてもらえるよう対応していく。
- 次年度の事業計画は黒字を計画する予定である。

～組合の主張～

- 昇給額表に応じた昇給を実施すること。ベアは、率回答ではなく額回答を行うよう再度要求する。
- 来年度の採用者数は予定数を下回っている。離職者も後を絶たない。職場の要因需給は年々厳しくなっている。それらの防止のためにも我々の要求に応えるべきである。
- 次年度は黒字計画ならば、当然人件費を手厚くするべきである。2024年問題で脚光を浴びている中で賃上げが低額ならば、企業として選択されない。要員不足も改善されない。会社の魅力を高めるためにも満額回答を行うべきである。

会社は「昨年以上のベースアップ回答を行う」としていますが、我々の要求からは程遠いものです！離職者が絶えず要員が不足していく一方で、輸送障害、災害等に全力で対応し満身創痍なのは現場で働く我々が一番理解しているはず！我々は自信を持って堂々と、苦勞を訴え、満額要求を最後まで行っていきましょう！

第4回交渉(回答指定日)は3月14日(木)